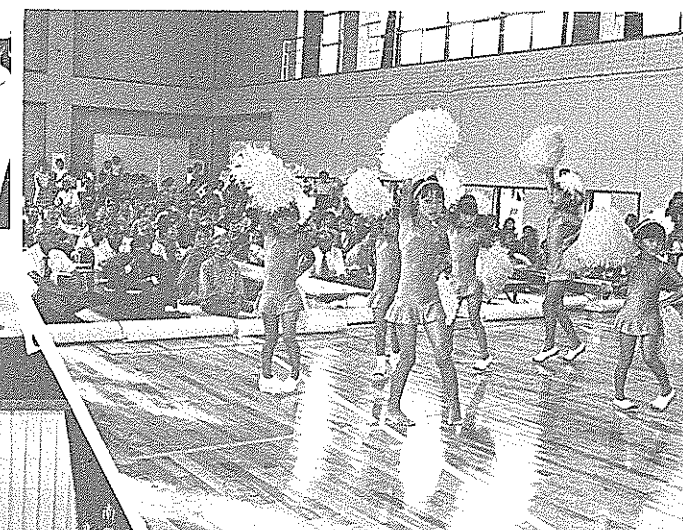


長寿を祝って 各地区で敬老会



手づくりのうちわを差し出すあけぼの
保育所の園児（土佐清風園）



元気いっぱいバントワリングを披露
（久礼田地区）



「いつまでもお元気で」作文を読む大篠小学校の児童



楽しい劇に会場は笑いの渦（岡豊地区）

郵便局から 白寿・米寿の 皆さんにお祝い



利岡さんに記念品を手渡す
南国郵便局長

敬老の日を前に、九月八日、西村賀喜南国郵便局長が、米寿を迎えた元教育長利岡富次さん（片山）を訪ね、郵政大臣からの記念品やお祝い状、西島園芸団地からのふるさと小包で「寿」と文字の入ったマスクメロンを贈って長寿を祝いました。

訪問した利岡さん方では、富次さんが「わざわざありがとうございます」と元気に出迎え、西村局長が「今日からは白寿を目指してますます元気で長生きしてください」と言葉をかけると、何度もうなずきながら、同時に届けられた小笠原市長や鈴江教育長、お孫さんたちから寄せられたお祝いのレタックスをうれしそうに読んでいました。

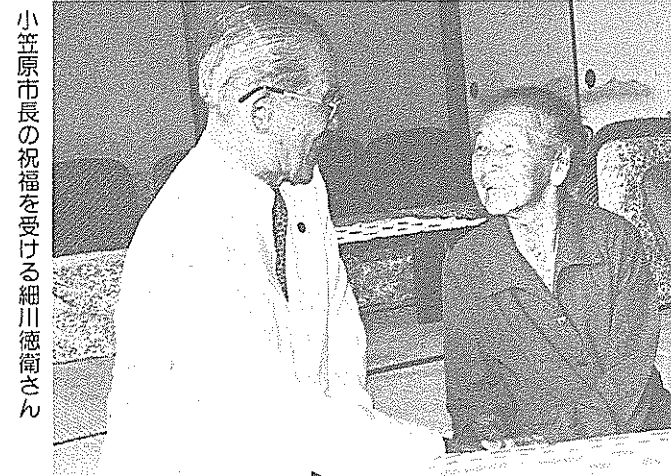
その他、市内で白寿を迎えた二人と米寿を迎えた八十五人の方にも郵政大臣から記念品が贈られました。

100歳以上の 長寿者3人を 市長らが訪問

「敬老の日」を前に九月七日、市内の百歳以上のお年寄り三人を小笠原市長や市社会福祉協議会の高橋増治会長らが訪ね、「長寿おめでとう」と記念品を贈って祝福しました。

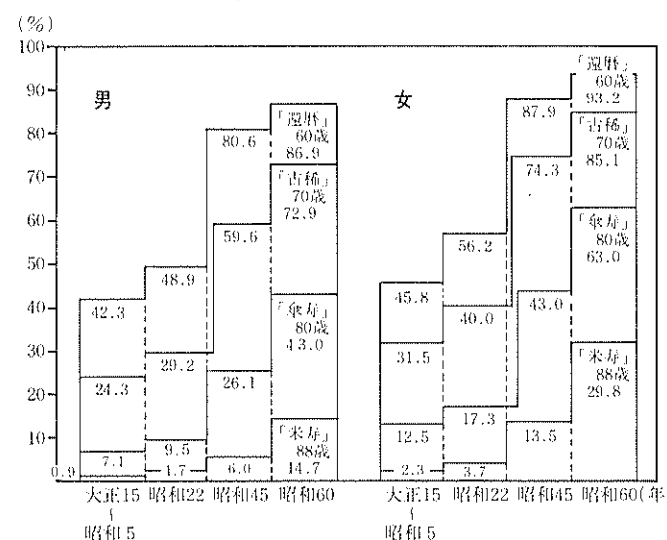
市内の百歳以上のお年寄りは、国分の岩原崎衛さん（明治十八年二月一日生まれ・百二歳）、奈路出身で土佐清風園の西川吉平さん（明治十八年三月三日生まれ・百二歳）、十市の細川徳衛さん（明治十九年十一月二十七日生まれ・百歳の三人で、いずれも女性です。

そのうち、十市の細川さん方は、徳衛さん自身は、徳衛さん自身が元気に市長らを出迎え、毛布やひざ掛けを贈られると「わざわざありがとうございます」と、はつきりした口調でお礼を述べていました。徳衛さんは、食事家族らと同じ献立で、好き嫌いはなくなんでも食べ、また毎日散歩するなど、まだまだ元気です。そして、市長が「風邪を



小笠原市長の祝福を受ける細川徳衛さん

出生児が還暦、古稀、傘寿、米寿 まで生存する可能性



人生八十年時代 を迎えて

地域奉仕に活躍する老人クラブ、市内九十二クラブのうちで、今新クラブ員の加入がなく高齢化に悩まされているところがあります。

引いたり転んだりしないように気を付けてください」と言葉をかけると、何度も頭を下げていました。現在、高知県で百歳を超すお年寄りは四十九人で、最高齢者は百四歳の明神亀太郎さん（須崎市）です。

岩原さん、西川さん、細川さん健康に注意して、いつまでも長生きをしてください。

日本人の平均寿命は大幅に延び、現在六十五歳の人の平均余命は、男性で約十六年、女性で約十九年です。いまや「余生」という考え方は大きな見直しを迫られています。長い老後をどう生きるか——人生八十年時代を迎えて私たち一人一人が真剣に取り組まなければならない問題です。

行政サービスが充実し、きめ細かな施策が展開されるようになって行政では肩代わりできない面があります。人間的なつながりによる連帯感の共有、情緒的な心の安定、孤独をいやしてくれる仲間意識、生きる気持ちの張り。これらはすべて地域の活性化によってもたらされます。

地域の活性化は、その地域に長く住み、十分な余暇があり、豊かな社会的経験を持つ人が適しています。これらの条件を最もよく満たしているのがはかなぬお年寄りの皆さん。大いに地域社会活動に取り組んでください。そうすることが一方で自分自身の生きがいの創造にもつながるのではないのでしょうか。

お年寄りの豊かな知識と経験が十分に生かされないのは大きな社会的損失です。地域づくりは自分たちが中心になって——そういう自覚をぜひ持ってください。